

第7回流山市生きづらさ包括支援の在り方懇談会 議事要旨

(日時) 令和5年6月8日(木) 13:30~16:00

(場所) ケアセンター4階 研修室1・2

(出席) 勝本委員、今成委員、中田委員、関根委員、田中委員、石川委員、田熊委員

(事務局) 流山市 伊原健康福祉部長 宮澤健康福祉部次長 池田社会福祉課長
田村健康福祉政策室長、その他市職員

<議事案件>

- 事務局説明(議題1・2について)

<懇談会における主な意見>

議題1について

- 重層的支援体制整備事業という事業名称とお困りごと相談員の名称について、市民に伝わりづらいという意見があった。
事業名称について、わかりやすいもの、お困りごと相談員について、市民に親しみがもてるものについて決めていきたい。

事業名称について

- この懇談会は最初、制度の狭間にいる人、困りごとがいくつもの分野にまたがっている人や困りごとを抱えているが支援に繋がらない人をどうするか、ということで始まったが、この事業が進めば今後、こうなっていくというような、前向きな、こういう流山にしていきたい、という名称になるように考えていくのがいい。
- 支える、支えられるという一方通行ではないので、支え合うというのはいかがでしょうか。始まりは支えられるだけかもしれないが、ニーズが満たされれば支える方になる、そういう地域を作りましょうということだろう。
- この事業は相談という入口に限るものではない。事業全体を指す名称として、わかりやすいものが良い。その後の支援も含めたものとして、～相談事業ではなく～支援事業が望ましいのではないか。
- 「流山市多様性を尊重する社会の推進に関する条例」が制定された。
その理念と関連するものが望ましい。
- 他の自治体はどういう名称か、重層的支援体制整備事業としてやっているのか。指すものがよくわからないところもある。

- 松戸市は「福祉まるごと相談窓口」という名称だった
- 愛称的なものとして、流山はカフェが多いので、つながるカフェや絆カフェというようなものが良いのではないか。
- 流山生きづらさ包括支援事業 流山ローカルサポートネット事業 というのはどうか。
- 事業名ということでは 生きづらさ包括支援事業 がいいと思う。
- つながるサポート事業や総合支援事業というのはわかりやすい。
- 「生きづらさ」「困りごと」を解消するということで、ポジティブなイメージを出すように、逆に「生きやすさ」という表現や「自分らしく生きる」というのはどうか。
- 生きづらさ、というのが対象者へのわかりやすさというという意味ではいいなと思っていたが、ここで考えを改めている。
生きやすさへの総合相談事業、「自分らしく生きる」を支える、というのもいいと思う。
- 「自分らしく生きる」を支える、だと、続く言葉は、総合支援事業か、相談支援事業か。
- 「自分らしく生きる」プロジェクト、「生きる」を支えるプロジェクト」などもいい
- 広報やホームページに示すときに伝わるものがよい。
- 支えられる人がやがて支える人になる、ということで 「支えるリレープロジェクト」
- スローガンのなもので 「自分らしく生きる」を支える街 流山」
- ここで決を採りたい。(懇談会委員と市職員とで採決)
 - ・「すべての人の暮らしを支える総合支援事業」
 - ・「自分らしく生きるを支え合う街 流山」この2案を推薦したい。
- 「支える・支えあう」を平仮名にしてはどうか
小学生でも読みやすいのではないか（支えるは小学校5年生で習う）
- ここでは平仮名を推すこととして
 - ・「すべての人の暮らしをささえる総合支援事業」
 - ・「自分らしく生きるをささえあう街 流山」この2案としたい

○次に、お困りごと相談員の名称について

相談員自身が言いやすい名称、という観点、相談員が自己紹介して相手が受け入れてもらいやすいという点も含めてほしい。

先ほどと同じで、「生きづらさ」というよりはこの事業が始まってどうなるか、というような観点があるとよい。

○相談員は専門職で、基本的には「困っている人」が対象者である。それを前提に決めたい。

○地域包括支援センターが「高齢者なんでも相談室」である
「子育てなんでも相談室」という名称で設置しているものもある。
名称が似ているとよくないのではないか。

○「生きやすさ」を入れるのはどうか。

○「福祉」という表現が入るとわかりやすいが、福祉につながる必要がないと考える人には印象が良くないのではないか。

○わかりやすさか、名称により相談を限定しないか、という点で考えるのがよい。

○福祉なんでも相談員が無難か 福祉つながる相談員などもいい。

○生きやすさ応援相談員、生きやすさ支援相談員、地域なんでも相談員 などはどうか。

○一番大切な機能は、つながることか、寄り添いなのか
→一番大切なのは、困りごとの解決・不安の解消だろう
→まずはまるごと受け止めることだろうか

○ここで決を採りたい。(懇談会委員と市職員とで採決)

- ・「つながる相談員」
- ・「地域なんでも相談員」を候補とする

○愛称のことはどうするか。事業が始まってからでないとも内容が市民に伝わらないので、すぐでなくてよいが、市民への愛称募集について検討してほしい。

○「つながるカフェ」は居場所の愛称に良い

提言書の内容について

○これまでの議論をまとめたものとして、事務局作成案について表現・書きぶりなど決めていきたい。

(第5回懇談会での議論を基にした案について読み上げ)

1 (事業の実施体制) について

○1番 「相談に来られない人」の「来られない」というのは、声を上げられないというような、潜在的なニーズを汲むという意味だろう。相談したくても相談できない・相談に来ることができないなど、分かりやすくまとめたものを入れたい。

○「地域や社会で孤立している人の支援ニーズ」、というのはいかが。
→厳密にいうと相談に来られない人と支援ニーズがある人は違っだろう。

○今までの議論で、困っているけど相談できない人と困り感が分からない(認識できない)ということもあった、困り感がない、どうしていいかわからない、あきらめてしまっているなど、など色々な状況が想定される。

※「相談したくても相談できない人や、既存の相談窓口へ声を上げられない人、地域や社会で孤立している人」と追記。

3 (会議体の運営) について

○「支援会議及び重層的支援会議の構成員」は、行政職員以外も含まれるが 「本事業担当者」は行政の職員を指す。そうするとその前後が繋がらないので、「構成員」を「運営」に修正をされたい。

○部署間連携を強化することを期待する、というのをもっと強く言えないか。
→「強化」されたいではどうか

※それぞれ修正を行う

○既存の相談窓口の役割も重要である。どんな内容もまず受け止めて、多機関協働につながるという観点が必要ではないか。この項目を追加したい。

(4番目に追加する。以降一つずつ繰り下げる 4→5 5→6 6→7)

追加した4（既存の相談窓口の役割）について

○「既存の相談窓口」については、少し広い範囲を指しているのだろう。
関連する機関は行政だけではなく、民間もある。民間企業や NPO など含むようなイメージで、それぞれの立場で努力するということが大切である。

○既存の窓口を社会資源の一つとして見るように記載したい。

冒頭に「本事業の実施にあたっては」として、「既存の相談窓口など、社会資源の活用に最大限に努め」というのを追記したい。

※提言書 4 のとおり追記

5（地域づくり）について

○予防的な観点と共に、既に困っている人もいるので、そういった内容を入れるのがよいのではないか

※「新たに」の前に「現在困っている人はもとより」を入れ、「予防的な観点から」を「予防的な観点も含め」にする。

6（事業の周知）について

○既存事業との違いについて伝わるような周知をするような表現をお願いしたい
→「既存の事業との違いを踏まえつつ」市民にわかりやすい～などはどうか

○「市民」については、子どももこの事業の対象者であるということを強調したいので、ぜひ「子ども」という言葉を入れてほしい

※「本事業の実施にあたっては」に続きを「既存の事業との違いを踏まえつつ」とし、「市民」を「子どもにも大人にも」に改める。

7（地域共生社会に向けた取組み）について

○「尊重し合い」を「尊重し、支え合いながら」とする。
※上記のとおり改める。

全体として

○「当たっては」は「あたっては」に統一されたい。

○新しい4番が入ったのがとても良い

民間も縦割りなので、そこも含めてみんな繋がらなくてはならない。
とても意義深い内容になった。

○記載されている7項目について市長に提言したい。

この懇談会はいったん終わるが、今後の準備、実施後の検討事項などで検討すべきことがあればまた集まることにしたい。